

只野 由晃

【はじめに】

この度、合格体験記を寄稿させていただきます。これまでに、いくつかの資格試験を合格した経験があり、合格時は「やったー！」というような“一時的な瞬間の喜び”が気持ちとして込み上げてきましたが、中小企業診断士試験に合格した時の気持ちは、これまでの資格試験合格と違い、長い学生生活の卒業を迎えるような“ほっと安心”する気持ちに包まれました。

そのような気持ちを感じたのは、私が多年度受験生だったからだと思います。私は中小企業診断士試験合格を、生活の中で最優先に位置づけ、他の受験生に負けない努力を毎年してきた自信はありました。ただ、1次試験は毎回一発で通過するものの、2次試験は解答が公表されないこともあり、思うような結果に結びつきませんでした。不合格の時は、自分の勉強の仕方が全て否定されたような気持ちになり、どうしていいか分からなくなったものです。

そのような折りに、MMCは合格率が高いという声を耳にし、MMCで勉強のやり方を見直そうと考え受講を決意しました。

合格する学習の仕方は1つではないと思います。これからお伝えするのは、私のMMCでの学習・合格のポイントです。合格を目指す方々のヒントになれば幸いです。

私がMMCで合格できたポイントは、①学習ガイドブックの徹底理解、②毎回の答練を通じた80分の実践とアドバイス添削を通じた解答プロセスの修正、③答練で学んだことの本試験問題での実践、この3点に尽きたと感じています。以下、この3点について、もう少し述べたく思います。

【MMCで合格できたポイント①】

・学習ガイドブックの徹底理解

MMCでは、受講生に「学習ガイドブック」が配布されます。この学習ガイドブックに本質的な考え方が全て記載されています。それは、合格の鉄則と表現され、「題意に忠実に」「因果関係で書く」「多面的に切り口を明確に」「キーワードで書く」の4つがあります。そして、これらの考え方を本試験問題で答案として落とし込む為に、MCサークルとキーワードマトリックスが必要になります。

学習ガイドブックの徹底理解の到達点は、学習ガイドブックを通して学ぶ考え方を他の人に教えられるレベルであり、MCサークルとキーワードマトリックスについては白紙に何も見ずに書き出せるレベルだと考えています。

本試験において、最も怖いのは、設問文と問題本文を読んだのに「何を書いたらいいのか全く分からない」という状況になることです。学習ガイドブックの考え方がしっかり身につけば、何を書いたらいいのか分からないことは回避できると思います。

【MMCで合格できたポイント②】

・毎回の答練を通じた80分の実践とアドバイス添削を通じた解答プロセスの修正

MMCでは、初期の学習の後は、毎回、答練になります。

私が答練を通じて意識したことは、講義を通じて学んだ考え方を実践し、上手く出来なかった場合はどうしたらできるようになるのか追求し、修正を加えることの繰り返しです。この繰り返しを通じて、問題の解き方が研ぎ澄まされていったと感じています。

また、アドバイス添削を通じた解答プロセスの修正も重要です。当初、私は何を書いたらいいのか分からなくなるのが怖くて、設問を読んだりする時間を多めに取り、解答を書く時間は最小限に設定していました（100字5分）。そのせいもあって、答練で書き切れないことが多々あり、ある時、徳川先生に「もし本当に時間がなくて書き切れないなら、最初から書き切れる時間を確保しなさい。今まで学んだ事がしっかり身についているなら、書く内容は分かるはず」とアドバイス頂きました。このアドバイス以降、思い切って書く時間をしっかり確保する（100字7分確保する）ように80分のプロセスを修正し、本試験でも空欄を作る事なく、書き切ることができました。

【MMCで合格できたポイント③】

・答練で学んだことの本試験問題での実践

このポイントは、自宅学習の範囲になります。MMCの答練は、本試験問題を基にしていますが、難易度の低いところからのステップアップ、及び、受験指導という制約上、どうしても本試験よりヒントが多めに（もしくは発見し易く）なります。

そこで、答練を通じて磨き上げている解答プロセスを、本試験問題で実践し、解答を書き切れることが必要になります。

この本試験問題での実践は、必ず答練後にやっておいた方がいいと思います。自分の解答プロセスを過去の本試験問題に適用し、書き切ることができなかつたら、実際に受ける本番で解答が書けなくなるからです。

以下、本試験で私が解答した令和元年度「事例Ⅰ第5問」を例に取り上げたく思います。

[第5問]

A社長は、今回、組織再編を経営コンサルタントの助言を塾考した上で見送ることとした。その最大の理由として、どのようなことが考えられるか。100字以内で答えよ。

[解答プロセス]（思考の流れの順に書いています）

まず鉄則1「題意に忠実に」です。この問題で聞かれていることは、組織再編を見送った“最大の理由”です。そして、この問題はMCサークルで言うところの組織構造の論点になります。ここで問題文を何も見なくても見送った理由として、a：組織再編をしたくても資源が足りない等できない状況にある、b：今の組織の方が効果的である、の2つの方向性は想定できます。

問題本文に、資源が足りなそうな記述、もしくは、今の組織が有効に機能している記述がないか拾いにいくと、資源が足りなそうな記述として従業員削減の記述（因果関係のヒントに使える記述）がありました。後は、鉄則 2「因果関係で書く」、鉄則 4「キーワードで書く」を使い、実際の解答として「最大の理由は、100 名以上の社員数が約 80 名に縮小し、限られた人材の有効活用が必要なので、専門化による効率化や規模の経済性が活かせる機能別組織が、経営資源の重複も回避できて有効と考えたから。」と書き切りました。

この例を通じて申し伝えたいのは、この解答が当たっている・当たっていないという事ではありません。MMC の解答プロセスを本試験問題に適用できるように、自分の中で腹落ちさせておけば、本番で何を書いたらいいかわからない状況を回避でき、かつ、いつも通りの思考の流れで時間をかけずに解答を書き切れるということです。

【おわりに】

私が合格できたのは、MMC を受講し、基本となる考え方をしっかり学べたからだと思っています。徳川先生、中居先生、伊藤先生をはじめ、ご指導頂きました先生方、本当にありがとうございました。